

ところ会 4 月行事案内

平成 27 年度、第 4 回テーマ：

さくら咲く玉川上水羽村堰へ

(根がらみ前水田、阿蘇神社、羽村堰、羽村市郷土博物館)

4 月 3 日の羽村は満開とは行かずとも十分さくらは咲いていると思います。さくらの下で散策とお弁当を楽しみましょう。約 7km 程度のコースです。

記

■日 時：平成 27 年 4 月 3 日（金）9 時 10 分集合

■集合場所：所沢駅新宿線ホーム特急券売り場前

■見学場所及び時間

所沢駅(9:18)⇒東村山⇒小川⇒拝島⇒羽村駅⇒まいまいず井戸
⇒根がらみ前水田（チューリップ）⇒一峰院⇒阿蘇神社
⇒水神社・羽村陣屋跡⇒羽村堰⇒羽村郷土博物館⇒羽村橋のケヤキ
⇒禅林寺・中里介山墓⇒旧鎌倉街道

■昼食：お弁当を持参下さい（羽村堰周辺でお弁当を広げます）

座る時に下に敷く物を持って来て下さい。

お弁当は羽村駅前のコンビニ等で買うこともできます。

<まいまいず井戸>

羽村駅に近い五ノ神神社の境内にある古い井戸。まいまいずとはカタツムリのこと、その名のとおり地面から渦巻き状に掘られている。806～810 年（大同年間）のものといわれ、当時は垂直に掘る技術が未熟だったためにこの形になった。直径約 16m、深さ約 4m。1962 年（昭和 37）まで利用されていた。



狭山市の七曲井、堀兼の井も同じです。なお、五ノ神本殿は市指定有形文化財です。

<根がらみ前水田>

ここでは 4 月 9 日～26 日の間「はむら花と水のまつり」（チューリップまつり）が開催されます。20 万本ものチューリップがあります。時期が少し早いのですが、どの位咲いているでしょうか？



<一峰院(いっぽういん)>

龍珠山一峰院は臨済宗建長寺派のお寺で、1424 年に三田雅楽助平将定の開基とされます。宝暦九年（1759）に焼失し、七年後の明和三年に再建されました。寺宝に十一面観音像、不動明王像があり、また境内には経塚や天保年間建立の出羽三山 碑もあります。

【鐘楼門】（市指定有形文化財）

一峰院の山門で、非常に軽快で均整のとれた外観と、細かな彫刻のバランスが美しい建物です。楼上に釣られていた鐘は、かつて玉川上水の出水急破の際に、人を集めるために鳴らされました。

鐘楼門の脇に山茱萸（さんしゅゆ）の木があり、下見の時(3/12)は丁度黄色の花を咲かせていました。



<吉祥寺跡>

江戸時代末期まで当地に存在していた山王山吉祥寺の跡地です。現在は個人所有地ですが、この付近からは平安初期の土師器破片や、中世の板碑も出土しており、阿蘇神社、一峰院と共に羽村文化の中心地であったともいえます。

<阿蘇神社> :

社伝によると推古 9 年（601 年）に推古天皇により創建されたと言われる古社です。承平 3 年（933 年）、平将門が社殿を造営。藤原秀郷が将門の乱で将門を討ち取った後には、天慶 3 年(940 年)にその霊を鎮めるため阿蘇神社を修復し、天文 5 年(1536 年)には、平将門の子孫と称する三田氏が社殿を修復しました。

永正 13 年(1516 年)には小田原北条氏朱印状を授かり、慶長 3 年(1598 年)には徳川家康が参詣。その後も徳川家光、綱吉、吉宗と、徳川将軍からの

朱印状が続きます。境内からは鎌倉時代のものとされる瓦が出土し、市内最古の神社の歴史を偲ばせます。

健磐龍命(タケイワタツノミコト：阿蘇大明神)を主神とし、御妃神である阿蘇都媛命(アソツヒメノミコト)、阿蘇初代国造である速瓶玉命(ハヤミカタマノミコト)など十二神を祀ります。

【阿蘇神社本殿】 (都指定有形文化財)

本殿は、一間社流造^{*}(いっけんしゃながれづくり)のこけら葺き屋根で、延宝4年(1676)再建のもので、江戸時代初期の神社建築の貴重な資料となっています。



※一間社：神社本殿で、母屋(もや)正面の柱間が一つのもの

※流造：神明造は屋根が直線的であるのに対して、屋根が反り、屋根が前に曲線形に長く伸びて向拝(こうはい、庇)となったもの。

【阿蘇神社のシイ】 (都指定天然記念物)

平将門を討った藤原秀郷が社殿を修復した際に植樹したという伝説があります。現在の木は二代目とされるが樹齢は800年とも1000年とも言われ、幹の周囲6.1メートル、高さ約18メートルです。厳密にはスダジイです。近年の降雪や台風で枝が折損するなどの被害を受けましたが、まだまだ樹勢は旺盛です。



<玉川上水と羽村取水堰>

【玉川水神社】玉川上水が完成した際水神宮としてこの地に建立されたもの。祭神は彌都波能賣(みずのはめのかみ)、水分大神(みくまりのおおかみ)

【玉川上水羽村陣屋跡】上水道の取締り、水門・水路・堰堤等の修理・改築などの上水管理に関する仕事を処理するため、陣屋と称する役所が置かれた。陣屋敷、水番小屋があり、陣屋には常に幕府の役人が往来し、村民との交渉により、本村へ文化上、生活上少なからざる影響を与えた。

玉川上水は承応元年(1652年)、幕府により江戸の飲料水不足を解消するために計画された。工事の総奉行には知恵伊豆とよばれた老中で川越藩

主の松平伊豆守信綱がなり、庄右衛門・清右衛門兄弟(玉川兄弟)が工事を請負い、資金として6000両が拠出されました。

兄弟は、最初は国立の青柳付近^{*}、次いで福生の熊川付近に取水口を設けたが、いずれも失敗。さらに羽村に取水口を求め、工事はようやく成功したといわれる。途中で資金が足りなくなり、二人は私財をなげうって工事の費用にあてて上水を完成させた。玉川上水の完成により、町人だった庄右衛門と清右衛門はほうびとして玉川というなまえをもらい、上水の管理の仕事をまかされました。玉川家による上水の管理は、江戸時代の中頃まで続きました。



玉川上水は江戸の飲料水だけでなく、野火止用水、小川用水、千川上水等の分水により農業にも大きく貢献しています。

※：最初の取水口は諸説ありますが、1回目の工事に関連し府中には「かなしい坂」、2回目の福生には「水喰らい土公園」と工事失敗の跡が残っている。

現在は、羽村取水堰から取り入れられた玉川上水の水は、羽村の第3水門から村山貯水池、山口貯水池に、また玉川上水駅近くの小平監視所から村山貯水池に行っており、小平監視所から先は「清流復活事業」によって僅かに処理水が流れているのみとなっている。なお、山口貯水池には少し上流の小作取水堰からも水を取り入れている。

<羽村市郷土博物館> ……入館料無料

常設展示は、多摩川とともに、玉川上水を守る、農村から都市へ、中里介山の世界の4つのコーナーとなっている。

また、屋外展示には赤門があります。この門は、中里介山の菩薩峠記念館の正門でしたが、もとは徳川幕府に仕えていた三ヶ島の眼科医鈴木家の門でした。江戸時代中頃の創建といわれ、朱塗りの建築から赤門と称し、本郷にある東大の赤門に匹敵すると常に自慢していたといわれています。

鈴木 一貫 1759~1824 宝暦9~文政7 65歳 医師

三ヶ島村糞谷に生まれ三ヶ島流眼科の名医で「経世済民」を旨とし、貧しいものからは治療費を取らなかった。また眼病以外も治療し、治療中に死亡した身寄りのないものは妙善院に葬っている。映画赤ひげのモデル。

先祖は熊野新宮の武士で初代は4代徳川家綱の旗本で、2代の時三ヶ島に移り幕府の藩医となった。三ヶ島眼科の門(医薬門)は赤く塗っていた。その弟は門を黒く塗っており、赤門・黒門と並び称された。赤門は大菩薩峠の作者中里介山の自宅の門として使用されたが、中里介山の死後羽村の郷土博物館に移築されており、黒門は宮寺の西勝院に移築されている。

鈴木一貫は江戸に出て「眼科三世方」を著し、安積良斎の紹介を受け評判となった。弟子は多く、各所に三ヶ島眼科を作らせ診療に当たさせた。患者は関東一円から集まり遠くは日向からも来ている。



赤門



黒門

<大石氏館跡と遠江(とおとうみ)坂>

大石氏館は、羽村東小付近にあったとされるが、現在は市街化により、その痕跡は微塵も残っていない。しかし、羽村東小の脇を下る坂は「遠江坂」と呼ばれ、大石遠江守の館があったところから付いた名だと言う。この居館の主は、北条氏照を養子にした大石定久^{*}の弟・大石照仲(または定久の子定仲とも)と言われている。

※大石定久(大石道俊)は下安松の長源寺を中興開基した。

<第3水門・神明緑道>

神明緑道には第3水門から村山貯水池に行く導水管が埋められています。そして「羽村山口軽便鉄道」の廃線跡でもあります。羽村山口軽便鉄道は、村山貯水池に多摩川の水を送水する導水管の建設のために、導水管沿いに敷設されたのが最初です。当初導水管工事が終わると軌道も撤去されましたが、その後山口貯水池が計画され、工事に伴って軽便鉄道が復活したのです。羽村から山口まで総延長12.6kmをディーゼル機関車で終夜運転さ

れていました。後にも先にも東京最大規模の軽便鉄道でした。

立川基地を通過して野山北公園のあたりでは御岳トンネル、赤坂トンネル等も残っています。

<羽村橋のケヤキ> (都指定天然記念物)

幹周：5.5m 樹齢：不明

私事ですが、約15年前にこの木を見て、巨樹が天然記念物に指定されているなら、見て回れば面白いと思ったのが、山本が巨樹を探すようになったきっかけです。

<禅林寺>

名作「大菩薩峠」の著者として知られる、中里介山の菩提寺。墓地は本堂の裏の小道を上った高台にある。

羽村の名主たちが首謀者となって狭山地方を襲った天明一揆を義挙とした、明治期の有志による建立の「豊饒の碑(天明義挙記念碑)」、かつて雨乞いのときに水をかけて祈ったといわれる竜が天井に描かれた山門など、境内には貴重な史跡も多い。

中里家は寺の前の方ずっと奥にありました。山門の脇の梅は中里家にあった梅です。



<馬の水飲み場>

坂の下に住む農家の人は畑がハケ上(段丘)にあったため、急坂を登り切った所に馬のために湧き水を利用した水飲み場を作りました。また、後に多摩川の砂利を羽村駅に運ぶ荷車にも利用されていました。



<鎌倉街道>

羽村東小学校の校庭を斜めに横切って遠江坂(導水管工事に壊された)を下り、多摩川を越え、滝山方面に向かっています。北に向かうと飯能です。鎌倉街道には飯能から秩父を通り上州へ抜ける「秩父道」がありました。この道は秩父道につながるものと思われます。